



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：イスラム過激派によるネット利用

(16日付サウジガゼット紙)

1. ファーイズ・シェフリー（報道・インターネット研究者兼作家）の発言

(1) タクフィール・サイトの増加

タクフィール・サイト（注：イスラム原理主義者以外を全て不信心者と決めつけて原理主義を説くサイト）が増加している。（不信仰者に対する）殺人をそそのかすようなタクフィール・サイトは300存在する。こうしたサイトは、道を誤った思想に追従し、テロリズムを称揚する匿名の人物または組織によって管理されている。対照的に、過激主義に抵抗するサイトは非常に少なく、穏健な説法を行っているのは80サイトだけである。

(2) 統計や報告書の信憑性の欠如

イスラム系サイトに関する統計やレポートのほとんどは、米国内のイスラエル・ユダヤ系組織が作成している。こうしたレポートは、シャリーア上のジハードを説いているサイトを全てタクフィール・サイトに区分するなど、大げさで不正確である。

2. イスラム事項省のタウフィーク・ステイリー次官の発言

宗教指導者たちは、思想セキュリティに貢献しているものの、これを若者に教え込むことには失敗している。

3. 内務省のアブドゥルラフマン・ハドラク思想セキュリティ管理総局長の発言

いくつかの衛星テレビチャンネルは、過激主義思想に対抗するために、政府の指示により放送されている。テロ防止のためには、監視と校閲だけでは十分ではない。若者を過激主義思想から守るためには、啓蒙的サイトを増やす必要がある。

4. アフマド・ジャイラーン（再教育プログラムのメンバー）の発言

テロ組織の80%はインターネットを利用して、若者のリクルートを図っている。アルカーイダは宣伝のために、インターネット利用の頻度を高めている。彼らはYou Tubeなど著名なサイトを利用し、その害毒を広めている。インターネットは、若者との接点を容易に切り開く。テロ思想の拡散防止には、ブラックベリーやテキスト・メッセージ（現地で一般的な携帯電話による簡易メール）のような現代技術を用いる必要がある。

5. マージド・ムルサール（イスラム事項省顧問、再教育プログラム・メンバー）の発言

当局がインターネットの管理に失敗すれば過激主義者の増加に繋がる。インターネットは過激派のプロパガンダやリクルートに使われている。過激サイトの監視体制が不十分なため、こうした過激サイトが増加している。こうした過激主義の受け手の80%は若者である。